



模試を受け止める

朝起きると、だいぶ寒さを感じるようになってきた。学校帰りに予備校などに行っている人も、帰りがけにも寒さを感じることはないだろうか。ユニクロのウルトラライトダウンでも携帯して(笑)、うまく体温調節できるようにしよう。体調管理がきちんとできるということも、受験生にとっては大切な資質である。寒さがつゆり、日が短くなると、受験生にとっては辛い日々になる。これから模試を返却するが、成績は伸びないし、どこを受けたらイイのか決まらないし、二次の対策が間に合うのか分からないし…と、不安ばかりが先に立つだろうが、それを克服するのは結局は「自分」でしかないわけだし、先輩方もみな不安に思いながらもそれを乗り越えてきたのである。まずは、目の前の課題を一つ一つこなしていくことだ。

さて、9月末にやった模試の結果を返却する。これには夏休み中の勉強の結果が表れているが、逆に言えば、夏休みまでの結果が表れているに過ぎない。ご存じのように、君たちの力が伸びるのはこれからである。それも(他校の生徒と比較しても)驚ろくほど伸びることが、例年の結果から実証されている。普通に日比谷の学校生活や授業を大切にしている人、つまり、遅刻したり、サボったり、居眠りしたり、内職したりしていない人は、例外なく成績は向上するから、あまり判定に一喜一憂することなく、これからの学習を考える資料として今回の結果を活用しよう。

ちなみに、今回の判定を10月時点の日比谷での学習状況に合わせて解説すると、国公立でB判定になっている人は、本番で今回と同じ力が発揮できれば、合格する段階に達し

ているといえる。理社をより強化しつつ、国数英の弱点を少しでも埋めていけば、よほどのことがないかぎり(当日インフルになっているとか、解答欄を間違えるとか…)ほぼ確実に合格できる。この調子でアナを埋め、添削によって記述力を高めて、余裕で合格ラインをクリアできるようにしていこう。

C判定の人は、合格が手に入りつつあるとあってよい。科目ごとの分析を見て伸びしろのある科目を確認し、今後の学習計画のメインに据えて、さらに学習量を確保しよう。

D判定の人は、合格圏に近づいているということだ。無理なのではないか?ではなく、合格が見えてきた!と考えて、何をやらなければならないのかを再度点検し、すき間時間なども活用しながら、踏ん張り所が来たと覚悟して、脇目もふらず努力すること。

E判定の人は、Dに近いEなのか、それともそこまで距離があるのかによって対策が異なってくる。「●判定にまであと▲点」と記載されているはずだから、▲点を稼ぎ出すためには、どの科目で■点ずつ上乗せすることが必要で、それが自分には可能なのかを考えてみよう。ちなみに、D判定までが70点程度なら誰にでも逆転が可能である。それ以上開きがある人は、志望校の再検討も含め、今後の対策を立て直そう。

自己採点結果も一緒に返却するので、1点でも違っていれば、その理由を見つけておくこと。二段階選抜がある場合、自己採点と実際の結果に誤差が生じていると、出願の段階で判断を誤る結果にもなりかねない。そういうところで足をすくわれないようにしましょう。